

式辞

(前略)

6年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。卒業証書を手にした今、どんな気持ちですか。今の気持ちを6年間の思い出とともに大切にしてください。みなさんは、下級生の手本となり、優しく頼もしい最上級生でした。全校朝会では、いつも最初に体育館に入り、静かに下級生を待つ態度は立派でした。

私が校長としてこの学校に着任したのは、みなさんが3年生に進級した令和2年4月1日です。休校になり、行動制限が多かった頃を思い出します。あれから4年の月日がたち、今日は卒業式です。みなさんを前にして話すことが、今日で最後になることにさみしさを感じます。

私は、みなさんと近い距離にいる校長でありたいといつも思っていました。そのようなこともあり、授業をよく見に行きました。いつでも生き生きと学習していた姿が印象に残っています。普段から男女の仲が良く、とても温かな雰囲気の良いなと感じていました。

卒業が近付いてきた3月、廊下には、一人一人が書いた、みなさんが心を込めて書いた「今、大事にしたい言葉」とその理由が掲示されていました。その中には、「夢」、「希望」、「感謝」など、卒業の時季に多くの人が思い描く言葉も見られました。

私もみなさんと同じように、「今、大事にしたい言葉」を考えました。みなさんが書いた言葉の中に、私が考えた言葉と同じ読み方をする言葉がありました。今日、卒業を迎えたみなさんに、その言葉を贈ります。

私が卒業生のみなさんに贈る言葉、

「大事にしてほしい言葉」は

(額を演台に置く)「自律」です。「自律」とは、「自分自身で自分を管理するこ

と」を意味する表現です。読み方が同じ「自立」(立つ)と混同されやすいのですが、この自律は自分を律するという意味です。もう少し説明を加えると、「自律」とは、他から制約を受けることなく、自分で決めた規範に従って自分の行いをコントロールすることです。要するに、自分で目標を立てて実行するということです。

私がこの言葉「自律」に決めた理由をお話しします。私は、かつてたくさんの人に水泳を教えてきました。後に教員となり、学校でもたくさんの子どもたちや教員と関わってきました。その経験から気付いたことがあります。ぐんぐんと力を伸ばしていく人には、共通したことがあるということです。それは、この「自律」ができている、ということです。

例えば、何かに取り組むときに、決められたことや言われたことだけをするのではなく、自分で計画を立てて実践することができている、ということです。みなさんは、これから中学校、高校へと進み、やがて社会へと羽ばたいていきます。そして、何らかの職業に就きます。これからの人生において、決められたことだけをするのではなく、さらに自分で考えて行動できる人になってほしいと願っています。

今、夢や希望にあふれているみなさん、「自律」という言葉を心に抱きながら自分の力を最大限伸ばし、社会で活躍できる人に成長して行ってください。私もこの「自律」という言葉を大切にしていくとともに、みなさんを遠くから応援し続けます。

(後略)

令和6年3月25日

立川市立南砂小学校長 浜中 佳規